

校 園 名 : 鳴 門 教 育 大 学 附 属 中 学 校

所在地: 〒770-0804 徳島県徳島市中吉野町1丁目31番地

記載日: 平成28年5月6日 記載者: 瀧川 靖治 記載者役職: 教頭

貴校の校風、おおまかな特色について:

昭和24年の創立当時の校長が本校の校風として挙げた4点が現在の校訓となっている。

<校訓>

附属中学校は

- 創造的な知性を磨く学問学校である
 - 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校である
 - 強健な身体を練る体育学校である
 - 敬和奉仕の精神に生きる人間学校である
- ことを期待する。

また、創立当時から続いている学校行事が多く、体験を通して、生徒は附属中学校の一員としての自覚を育んでいく。

<伝統的な行事>

- ・揮毫式 ・かがり火の集い ・灯の儀
- 保護者ネットワークの結びつきが強く、同窓会組織も機能している。

貴校の卒業生の活躍状況について:

①していない(しいて言えば、同窓会名簿を10年ごとに更新・作成)

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について:

①していない(しいて言えば、毎年行っているOB会名簿の更新・作成)

魅力ある、特色ある、または、今後、公立学校へ展開できそうな先導的な取り組みなどについて:

<大学との連携>

- ・LF(Live F Time): 生き方を考える時間として、大学の先生の講演等(年間6~8時間)を行う。
- ・課題探究学習: 2年生の総合的な学習の8時間を選択制にしてシラバスを作成し、大学の先生が授業をする。(中学校教員もペアで入って連携を図る。)
- ・毎年実施の研究発表会: 大学の先生が全ての教科において助言者として関わっている。

<公立学校への還元>

- ・国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業を受諾し、社会生活の中で活用される教科横断的な論理的思考力やそれらを表現する力の育成に努め、研究発表会や各種研究会等で、これまでの研究成果の発信に努めている。研究発表会における平成27年度の公立学校教員の参加者は74名である。
- ・ほとんどの教科等における教育研究会の事務局や研究部が本校にあり、県内の教科教育の研究・運営の中心的な役割を担い、その充実・発展に寄与している。

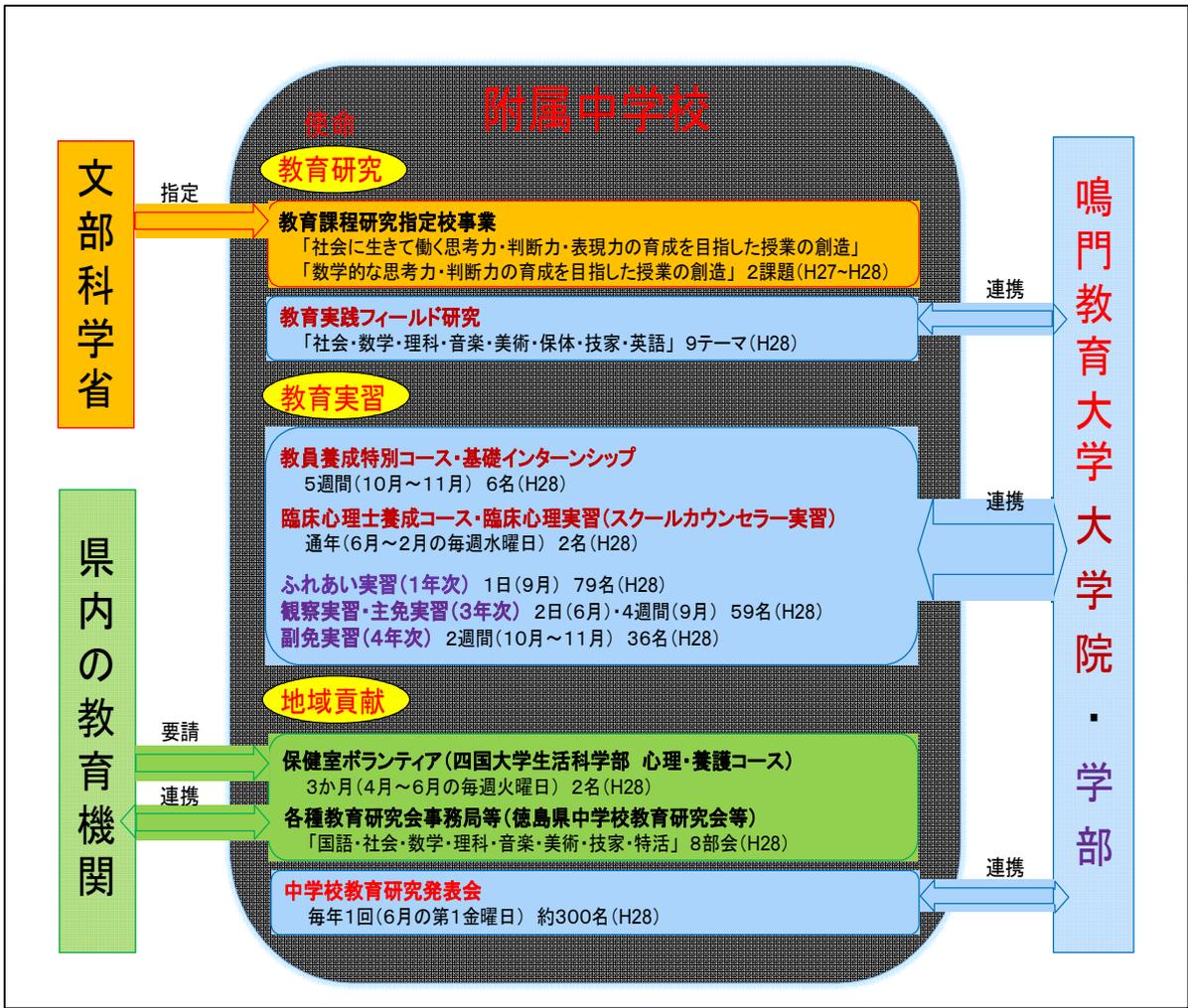
地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか。:

附属中学校の取り組みは先導的であり、その成果等を、公立学校ですぐに生かしたり活用したりすることは難しいと捉えられているところがある。そのため、効果的な取り組みを中心に、成果があった内容や方法等をわかりやすく発信することで、県下の中学校教育の推進に寄与する必要があると考えている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について:

大学・他の附属学校園・県教育委員会・市町村教育委員会・公立中学校等と協議会を持ち、共通の目標やテーマを設定して、本校だからこそ担える(本校に担ってほしい)研究開発・実践内容等を明確にして取り組み、その成果等をわかりやすく発信していく。(もちろん、大学や公立学校等それぞれの立場で担っていく取り組みを明確にする。) また、附属の研究実践の成果を生かした公立学校での取り組みにおいて、新たに明らかとなった課題等についても、さらに研究をして解決策等を発信していく。

それぞれの立場での強みを生かしながら双方向に発信・受信を繰り返し、地域生徒の育成をもとにした研究実践を展開していく。本校は、研究・実践・指導面において、地域連携の中心的な役割を担うことができる。



地域との連携

大学と本校が所在する徳島市との間で、「津波時における一時避難施設としての使用に関する協定書」を結び、津波発生時は本校校舎の3・4階及び屋上を地域住民の一時避難場所として開放する。そこで、年1回は地元の自主防災組織の避難訓練や、近所の認定こども園との合同避難訓練を実施している。

